

TCFD 提言への対応状況について

項目		対応状況
ガバナンス	a 気候関連のリスク及び機会についての取締役会による監視体制	<p>当社は、「自らの職業的実践を通じ、コンピュータサイエンスの諸分野を発展させ、それによって人類の未来に貢献する」という経営理念に基づき、持続的な成長を目指すべくその取組みに関する基本方針を定めています。</p> <p>また、事業ポートフォリオ戦略や知的財産等への投資等については、四半期毎にモニタリングを行い、その進捗状況を取締役に報告することで監督機能を強化しています。</p> <p>なお、これらサステナビリティに関する実効的な監督を強化するため、取締役会はサステナビリティ担当役員から報告を受け、その取組状況等を監督しています。</p>
	b 気候関連のリスク及び機会を評価・管理する上での経営者の役割	<p>気候変動リスクについては、当社グループは環境負荷の少ない企業であるものの、お客様の経営効率化に貢献するため、高品質なシステム開発とサービスを提供することで、業績向上を目指しております。</p> <p>特に、業績への影響の大きい案件については、重点会議による監視を行い、随時経営への報告が行われ、お客様への納期やサービス提供の遅延等によるトラブルを未然に防ぐ体制をとることで、お客さまの気候変動リスク軽減に役立っております。</p>
戦略	a 組織が識別した、短期・中期・長期の気候関連のリスク及び機会	SRA グループの経営理念を基に、お客様の経営効率化と環境負荷について問題解決に向け、ITの活用を通じて貢献することで気候関連リスクに対応してまいります。
	b 気候関連のリスク及び機会が組織のビジネス・戦略・財務計画に及ぼす影響	同上
	c 2℃以下シナリオを含む、さまざまな気候関連シナリオに基づく検討を踏まえて、組織の戦略のレジリエンス	今後検討してまいります。
リスク管理	a 組織が気候関連リスクを識別・評価するプロセス	気候変動がお客様の業績に影響を及ぼした場合、設備投資の縮小等による当社グループの業績計画に影響が出る可能性があります。お客様の設備投資状況は、事業部を通じ毎月、経営へ報告され管理されております。
	b 組織が気候関連リスクを管理するプロセス	同上

リスク管理	c 組織が気候関連リスクを識別・評価・管理するプロセスが組織の総合的リスク管理にどのように統合されているか	当社グループは気候変動による影響が少ない IT 企業ではありますが、気候関連リスクについて間接的にお客様事業への貢献（お客様と共に成長する）ことと、直接的に Co2 削減やペーパーレス化等の資源の無駄削減に取り組むことで評価しております。 当社グループの取り組みは、グループ各社と情報と目標の共有を行い、サステナビリティ担当役員へ情報が集約され、グループの対応状況が管理されています。
指標と目標	a 組織が、自らの戦略とリスク管理プロセスに即して、気候関連のリスク及び機会を評価する際に用いる指標の開示	当社グループの発展が人類の未来に貢献するという理念のもと、当社グループの業績成長が気候関連リスクに貢献していることから事業の成長を指標と捉えています。
	b Scope 1、Scope 2 及び当てはまる場合は Scope 3 の温室効果ガス（GHG）排出量と、その関連リスクについて開示	今後検討してまいります。
	c 組織が気候関連リスク及び機会を管理するために用いる目標、及び目標に対する実績	当社グループで可能な範囲の気候関連リスクに対する目標値の設定については、業界団体である情報サービス産業協会（JISA）の「JISA 低炭素化社会実行計画」に参加し、2030 年度の CO2 削減目標を下記の通り定め取り組んでおります。 https://www.jisa.or.jp/it_info/statistics/tabid/2830/Default.aspx